

各種アンケートを踏まえた改善策（重点項目）

1. 健康栄養学部

1) 6-2 国家試験の模擬試験の頻度について（平均値：2.3）

令和6年度のアンケートで「やや少ない」の回答が66.7%であった。これは一通り勉強した後に模試を受験すべきであるという令和6年度の方針があり、8月下旬から毎月1回計7回実施された。

令和7年度は、新4年生の3年次後期の国試対策の遅れを取り戻す必要もあり、模試回数等の計画を立て直し、全国統一模試の開始時期を5月上旬に早め、毎月1回、計10回以上実施することにした。さらに本年度は各回の模試翌週の授業（管理栄養士特論Ⅰ・Ⅱ）直後に、4年生全員に対して講評・助言等を行い、次回の模試までの指針を示すことにした。

以上のように令和7年度の模試は授業（特論）と並行して国家試験学習のペースメイキングを行い、個人に応じた軌道修正をして次の模試で確認することを繰り返しながら合格へ向かう計画とした。

2) 7-5 クラブ・同好会活動について（平均値：2.0）

入部していない学生が全学で62%であったのに対して、健康栄養学部では50%であった。しかしながら、平均値では2.0と低い値を示し、より一層の努力が必要であると考えられる。本学部では修文ミニトラを畑用地の確保が不可能となり、代替として「まんてん食堂」を立ち上げ、スポーツ栄養に興味を持つ学生が参加している。今後さらに「学生の将来につながる活動」「食材の発注作業などの調理知識」を取り入れ、内容を充実させ部員数を増やし、大いに活性化したい。また、今年度からレシピの考案・試作を通じて管理栄養士としての知識・技術の修得をめざす「すまいるたまご」同好会を立ち上げた。学生への「修文NST」、「まんてん食堂」、「すまいるたまご」の紹介・勧誘を全学オリエンテーション時にも実施する。

3) 7-6 大学祭の充実（平均値：2.9）

全体平均値も2.9であり、昨年度の2.8より若干上昇した。新型コロナウイルス流行に伴う中止以前の状態に戻せるよう内容を充実させ満足度を上げる必要があり、1、2年生の担任を中心に大学祭への参加を呼び掛け、参加内容に関して全教員に協力を呼び掛ける。

2. 看護学部

1) 建学の精神

[改善の方向性]

建学の精神の理解促進には、継続的かつ多面的なアプローチが必要である。新カリキュラム学生の年次別ディプロマポリシー到達評価により、今後の改善が期待される。

[具体的改善案]

- 1) 新入生オリエンテーションおよび前期・後期ガイダンスでの継続的周知
- 2) 各種イベント機会を活用した反復的な伝達
- 3) 講義室・実習室への掲示による視覚的周知
- 4) 各教員による講義・ゼミでの内容と関連付けた説明の実施
- 5) 担当教員が折に触れて学生の理解を促進する取り組み

2) 大学祭

[現状分析]

コロナ禍の影響により、卒業生の多くが大学祭の経験が少なく、学年ごとの事情（実習、国家試験準備等）も参加率に影響している。

[具体的改善案]

- 1) 看護学部らしい企画（レモネードスタンド等）の恒例化
- 2) 学生委員会を中心とした参加促進活動の強化
- 3) 学生からの企画案公募制度の導入
- 4) 看護テーマでの出展を教員が積極的に呼びかけ
- 5) 国家試験受験生の気分転換となるような企画の充実
- 6) 参加学生からの実際的な意見収集と学部学生への反映

3) スポーツ大会

[改善の方向性]

参加へのハードルを下げ、学年間交流を促進する仕組みづくりが重要である。

[具体的改善案]

- 1) ゲーム性のある新種目の導入による参加しやすさの向上
- 2) 参加インセンティブの検討
- 3) 1・2年生の交流機会としての位置づけ強化
- 4) 先輩から後輩への魅力的な体験談の共有機会創出
- 5) 部活動と連携した学生が楽しめる競技企画
- 6) 平日開催の検討（講義調整との両立）

4) 通学バス

[現状と課題]

一宮駅からの半額利用は評価されているが、本数不足が継続的な課題となっている。

[具体的改善案]

- 1) 大学スケジュールに合致したバス本数の増加要望
- 2) 小型バスでも良いので増便の検討
- 3) 名鉄バスとの継続的な協議推進
- 4) 4・5 限終了時間に集中した運行の検討
- 5) 学生への現在の配慮内容の説明と理解促進

5) 食堂メニュー・座席数

[改善の方向性]

健康栄養学部専門性を活かし、学生のニーズに応じたメニュー充実が求められる。

[具体的改善案]

- 1) パスタ等の追加メニューの導入
- 2) 学生の具体的要望調査の実施
- 3) 健康栄養学部学生によるメニュー考案企画の実施
- 4) ヘルシーメニューの充実とバランス改善
- 5) 年数回の食堂補助イベントの検討
- 6) 健康栄養学部のアピールにつながる食堂の名物化

6) 学内コンビニ品揃え

[現状分析]

品揃えの単調性と価格の高さが学生の不満につながっている。収益性との悪循環も課題である。

[具体的改善案]

- 1) 学生希望調査に基づく「今月の一品」制度導入
- 2) パン屋商品の価格設定見直し
- 3) キッチンカー等の外部業者活用検討
- 4) 学生主体の仕入れ・販売システムの導入検討
- 5) 学生意見を継続的に吸い上げる仕組みの構築

7) [総括]

2023 年度は、評定 2.9 以下が 11 項目であったが、2024 年度は 6 項目と約半数となった。

2 年以上連続で評定値が低い項目は「建学の精神」以外の 5 項目である。

これらの中でも、外的要因に関するバス、コンビニの問題については、業者との話し合いをしながら配慮されている点など構造的な理解を促すことも重要である。

また、食堂については、健康栄養学部のアピールにつながる企画など、教育効果と学生満足度の両立を図る内容を提案した。

そして、大学祭やスポーツ大会に関することは、学生主体性を重視した内容として「意見収集」「学生主体の企画」「学生委員会を中心とした取り組み」として対策案を提示した。

建学の精神については、継続的で多角的なアプローチとして、1人1人の教員が折りに触れ説明を行うようにすることを提案した。

これらの改善案を段階的に実施し、次年度のアンケート結果での効果検証を行う。

3. 医療科学部

1) 医療科学部は100%の回答率であった。回答率が向上したのは国試の翌日に、卒業にあたって必要な手続きを、事務から説明してもらう前に、支援センター長が、その場で10分ほどでスマートホンを使いアンケート調査をしてもらったためである。

2) 医療科学部は本学での学習内容、特に国試対策、アドバイザー制度、就職支援に関する質問には軒並み約90%の学生が満足であったと回答している。今年度の国試の合格率が昨年の62/5%から90%を超えたことで、国試翌日は多くの学生の精神状態がとても良かったと推測される。また、国試は受けられなかったが卒業できた学生もほぼ就職できたため、満足していた。

国試対策で一部の学生から模試の回数が多すぎるということがあったが、個別に聞いてみると、模試が多いのは、学生の実力を上昇させるのに役立っているし、勉強する動機づけにもなっていると、概ね好評であった。模試を欠席して、不合格した学生は1、2回生ともに後悔していた。就職活動はアドバイザーを中心にどんどん受験するように促していた。それでも、中盤はかなり苦戦した。最終的には全教員で9割以上の学生の就職を確保できた。講義に関して、微生物の教員がいなくなったことでその科目の勉強に支障をきたしたという意見があったが、非常勤教員や残りの教員でカバーしたため、実質的にはそれほど、国試の点数には響いていない。来年度から常勤教授に講義、実習、国試対策をしっかりとやらせてもらう予定である。このように学習面では、国試合格率の上昇に従ってアンケートに結果が良くなっていると思われる。今後も今の方針を続けていく予定である。

運動会、文化祭、寮、バスといった学習周辺の課題は、教員に余裕が出てきてから徐々に良くしていくのに協力するが、今のところ国試対策、就職対策が中心になる。